

目久美遺跡

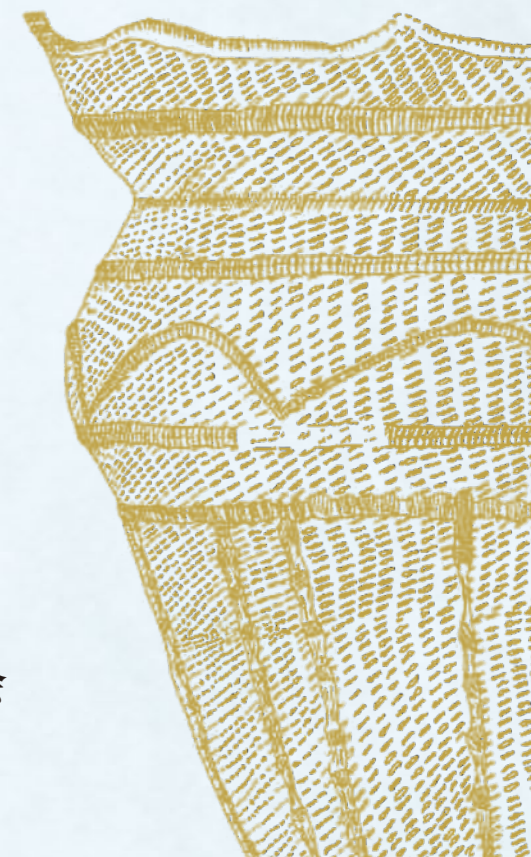
— 縄文時代編 —



現在(令和6年)の目久美遺跡周辺の風景



昭和28(1953)年頃の目久美遺跡周辺の風景



池ノ内遺跡

発掘調査の範囲
(1次~18次調査)

目久美遺跡が発見されて90年以上の月日が経ちました。
今から6000年前、目久美遺跡の周辺には海辺に面した豊かな自然環境が広がっていましたが、現代では急速に都市化が進み、かつて目久美神社周辺にあった農村風景は失われつつあります。
しかし、目久美遺跡から見つかった加工具や狩猟具・漁具、調理具等の遺物は、かつて海と照葉樹林に囲まれた環境で、海の幸・山の幸を求めて縄文人たちが工夫していた生活や精神文化の様子を私たちに伝えてくれます。

目久美遺跡の資料が見学できる施設

【米子市福市考古資料館】

目久美遺跡から出土した遺物等を展示しています。

- 入館料 無料
- 開館時間 9:30 ~ 17:00
※ただし入館は16:30まで
- 休館日 毎週火曜日(祝日の場合翌日)
年末年始

〒683-0011 米子市福市 461-20
TEL・FAX 0859-26-3784

【米子市埋蔵文化財センター】

市内遺跡出土の遺物を展示・収蔵しています。

- 入館料 無料
- 開館時間 9:30 ~ 17:00
※ただし入館は16:30まで
- 休館日 土日・祝日
年末年始

〒683-0011 米子市福市 281 (旧・日新小学校)
TEL・FAX 0859-26-0455

遺跡周辺情報



現在、遺跡は埋め戻されています。
(案内看板が目印)

【所在地】
米子市目久美町
90-15

問い合わせ 米子市文化振興課

〒683-8686 鳥取県米子市東町 161 番地 2
TEL 0859 - 23 - 5438
FAX 0859 - 23 - 5414
E-mail : bunka@city.yonago.lg.jp

このリーフレットは、令和5年度に「市内埋蔵文化財地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を活用して作成しました。

海辺での暮らしを物語る遺跡

目久美遺跡は、米子平野の南端、加茂川左岸に位置する集落遺跡です。

昭和8年(1933)に行われた新加茂川の開削工事中に土器が発見され、その翌年には京都大学の梅原末治(考古学)による調査が行われ、縄文時代と弥生時代の複合遺跡であることが確認されました。その後も開発に伴う発掘調査が行われ、昭和52年(1977)には市の史跡に指定されました。現地は緑地として約300㎡が保存されています。

狩猟、漁労、採集を生業とした縄文時代の包含層からは、早・前期から晩期にわたる各時期の縄文土器や石器、骨角器、動植物遺体が1万点以上出土し、山裾からは48基のドングリ貯蔵穴が検出されました。

山陰地方を代表する縄文時代の低湿地遺跡で、照葉樹林と海辺での縄文人の暮らしの様子をよく物語っています。

目久美遺跡周辺の地形の変遷



8000年前 (縄文時代早期)

急速な気候の温暖化が起こり、海面が上昇して海岸線が陸側へ移動する「縄文海進」が起こりました。遺跡周辺は陸域から海域へ変化し、内湾性の貝類が生息していました。



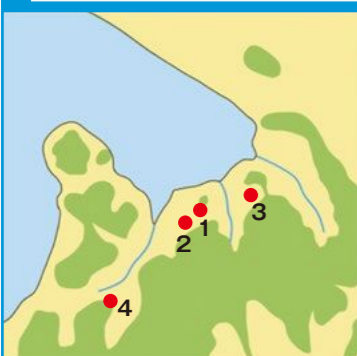
6000年前 (縄文時代前期)

この頃から5000年前にかけては世界的な温暖期で、海域が最も拡大していきました。周辺の丘陵には、温暖な気候を示すシイ類を主とする照葉樹林が広がっていました。



3000年前 (縄文時代晩期)

気温が低下しはじめ海退が進み、遺跡周辺は内湾から湿地へ変化していきました。拡大した湿地にはスギ類・ハンノキ類などの樹木、周辺の丘陵にはカシ類やシイ類の照葉樹林が形成されるようになりました。



2700年前 (弥生時代前期)

河川の堆積作用によって形成される平野部(沖積低地)が拡大していき、遺跡周辺は完全な陸地となりました。弥生時代前期になると遺跡周辺では水田が作られ、稲作が行われるようになります(弥生時代は別編)。

遺跡周辺に生息した動物

陸生動物

シカ・イノシシ・サル・イヌ・テン・アナグマ・カワウソウ・タンチョウ・コウノトリ・オシドリ など

水棲動物

サルボウ、ハイガイ、スズキ、マグロ、ブリ、マダイ、クロダイ、サメ、クジラ、イルカ など



イノシシ下顎骨



クジラ類椎骨



鹿角で作った斧

遺構



海岸礫の検出状況 (大谷遺跡)

目久美遺跡に近接する大谷遺跡では、縄文時代晩期の層から海岸礫が大量に検出されました。付近からは人の足跡も見つかっています。



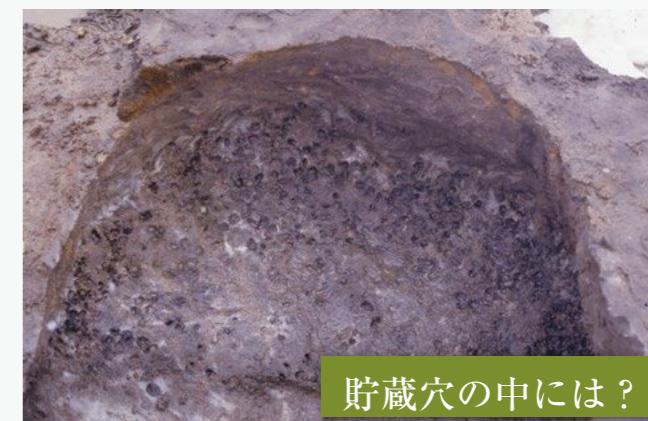
縄文人の足跡

足跡のサイズは長さ20~30cm、幅10~15cmです。型が潰れてしまったものが多いこと、検出面から下方へ深く伸びているものがあることから、干潟などの軟弱な地盤の上を歩行していたと考えられます。



貯蔵穴の分布

山裾からは48基の貯蔵穴が集中して検出されました。穴の平面は円形や楕円形、直径1m・深さ1m前後で、断面は袋状、U字状を呈しています。



貯蔵穴の中には？

貯蔵穴の中からはドングリ等の堅果類や石・木片・石器・土器が検出されました。堅果類の貯蔵と灰汁抜きを兼ねていたと考えられます。

遺物

縄文土器(早・前期~晩期)、石器(石斧・石錘・石匙・石臼(磨石)・凹石(石皿)・石鏃など)、鹿角斧、石製・骨製装飾品 など



縄文土器 (前期・鉢・爪形文)



石鏃 (黒曜石・サヌカイト製)



サメ歯形垂飾 (メノウ製)



石錘、磨石と石皿



抉状耳飾 (花崗岩製)